

【2020 最新】買って売るだけで儲かる？株の必勝法って？

株ってゆー、買って売だけのクソゲーでカネを稼いでるヤカラがいるそうです。でもそんなクソゲーでホントにカネを稼げるの？損はしないの？

そこで今回は株の必勝法について調べてみました。

スポンサーリンク



相場を「読む」ってどーゆーこと？

株ってゆーのは……

- ・買ったトコより高いトコで売ると儲かる→利食い
- ・買ったトコより安いトコで売ると損する→損切り

だから、これから上がると読めば買いということになります。

しかし現実的に、未来を確実に予知することはできません。なので、「これから上がる」と読んでも、下がるときは下がります。これは、どれだけ知識を得ても、センスを磨いても、経験を積んでも同じことです。実際わたしも、「こっからそう簡単に下がるわけねーだろww買わない理由ねーからww」つって買った次の瞬間、アホみたいに下がってくるっつーことが毎日のようにあります。結局のところ、上がるか下がるかなんつーのはフタを開けてみないとわからないんです。

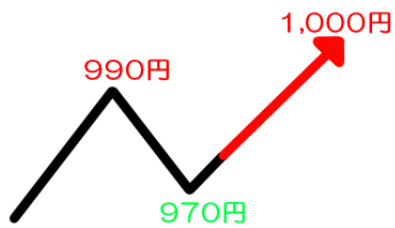
とゆーわけで、必ず読みがハズれたらどーするかを考えておかないといけません。「ボクたんの読みがハズれるわけがないんだー」とか言って、とっくに負け確の株握りしめちゃうのが一番危ないです。そりゃ運よく蘇ってくればいいですが、そうならなかったらどんどん損が膨らんでしまいます。なので、どこまで下げたら負けを認めるかをあらかじめ決めておき、そうになったら素直に損切りしましょう、となります。

ではこの利食いと損切りをどんなふうに設定したらいいのでしょうか。それはさっきから何度か出てきている、「読み」が教えてくれます。

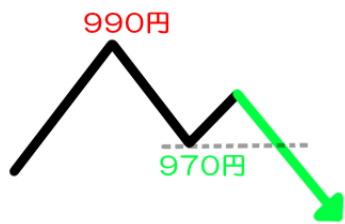
「読み」にはそれなりの根拠があるはずです。「なんかー上がると思ったんでー」ではタダの運ゲーになってしまいますからね。「こういう根拠で上がると思ったんでー」というのが筋です。とすると、この根拠が通れば利食い、崩れれば損切りというのが、これまた筋と言えます。例を見てみましょう。



今、チンタラ 990 円まで上がった後、970 円まで下げ、再び切り返してきた株があるとします。これは普段から私がよくする考え方でもあるのですが、株価というのは、キリのいい数字、いわゆる大台が近づいてきたとき、みんなの意識が向くせいか、そこを目指す傾向があります。なので、「この勢いのまま、大台である 1,000 円まで上げてくるだろう」と読んで買うことにします。



読み通り 1,000 円まで上げてくれたら利食いすればいいだけ。おいしい。



しかし上げきれず、さっきは踏ん張ることができた 970 円さえも割り込んで下げてきた場合、当初読んでいたほどの勢いはなかったということになります。とゆーわけで素直に負けを認め、速やかに損切りしなければいけません。

このように、根拠を持って「読む」ことで、利食いと損切りの目安が自然と決まります。逆に言えば、根拠もないのに買ってしまおうと、どこで利食ってどこで損切らなアカンのか、さっぱり見当がつかなくなってしまいます。そしてここが、他のギャンブルと株との最大の違いと言ってもいいでしょう。例えば……



競馬の場合、オッズ 2 倍の単勝馬券を 1,000 円分買った時点で、自動的に「投票した馬が 1 着になれば 1,000 円の儲け、ならなければ 1,000 円の損」というルールของเกมに参加したことになります。



同じようにルーレットの場合、赤に 10 ドルベットした時点で、自動的に「赤に入れば 10 ドルの儲け、入らなければ 10 ドルの損」というルールของเกมに参加したことになります。

このように一般的なギャンブルは、参加した時点で勝利条件と儲かるカネ、そして敗北条件と損するカネが自動的に決まることが多いです。あとは運営さんが勝手に始めて勝手に終わってくれます。

でも株の場合、ただ参加しただけ、つまりただ買っただけでは、そもそもどうなれば勝ちでどうなれば負けなのかすら、まだ決まってません。そして自分でちゃんと売らない限り、ゲームも終わりません。これって、もうなにやってるかわからんよーなカオス状態ですよ。

とゆーワケで、相場を「読む」ってゆーのは、「未来を正確に予知するためのもの」ではなく、「勝利条件と儲かるカネ、敗北条件と損するカネというルールを設定し、最低限ゲームとしての体を成すために必要なもの」だとわたしは思ってます。そのままではなにやってるかわからんクソゲーが、「読む」ことによって一応遊べるクソゲーにはアプデされるわけなんですね。ちなみにこの「読み」というのを「シナリオ」と言い換えたりもします。相場の上げ下げでシナリオが分岐するというわけですか。クソゲーの分際でマルチエンディングとはナマイキですね。

相場を「読む」ってどーゆーことかわかってもらえましたか？でも、じゃあ実際どんなふうに相場を読めば儲かるの？

次はそのことについて調べてみました。

大数の法則？ 期待値？ 損小利大？

根拠をもって相場を「読め」ば、利食いと損切りの目安が決まる、というのがここまでのポイントでした。しかし既にお話したように、株が上がるか下がるかは、結局のところフタを開けてみないとわからないというのが大前提。つまり、いくら合理的な根拠があっても、上がるときゃ上がるし、下がるときゃ下がります。依然として偶然の世界、運ゲーの域を出ません。じゃあそんな偶然の世界から、どうやったら安定した利益を引き出せるの？そのヒントは、「大数の法則」という考え方にあります。これはネットで調べてみた方が詳しくわかると思いますが、簡単に説明すると、「少ない回数なら偏りがあっても、ずっと繰り返すと一定の結果に収束するでしょうという法則」のことで、よく使われるコイントスとサイコロの例で見してみましょう。

例えば……

今から5回コインを投げます。
表は何回出るとおもいますか？



と聞かれても……



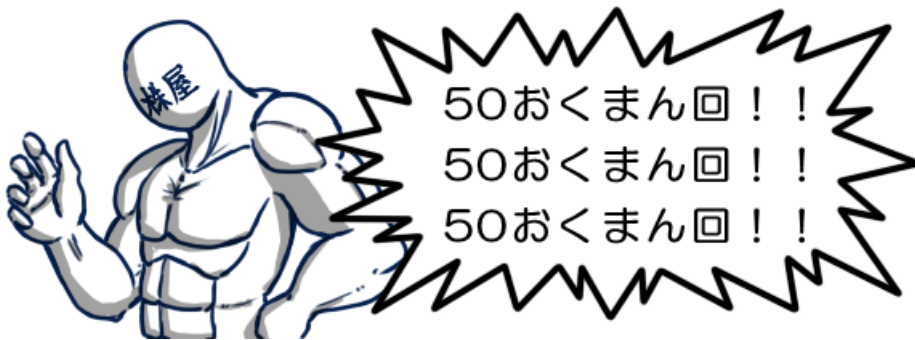
は？ いや知らん

と答えるしかありませんが……

今から100おくまん回コインを投げます。表は何回出るとおもいますか？



と聞かれれば……



とイキり気味に答えることができます。

これは、たかだか5回かそこらでは出目が偏りまくるのに対し、100おくまん回も繰り返せば表裏それぞれが大体 $1/2$ の確率で出るだろうと予想できるからです。



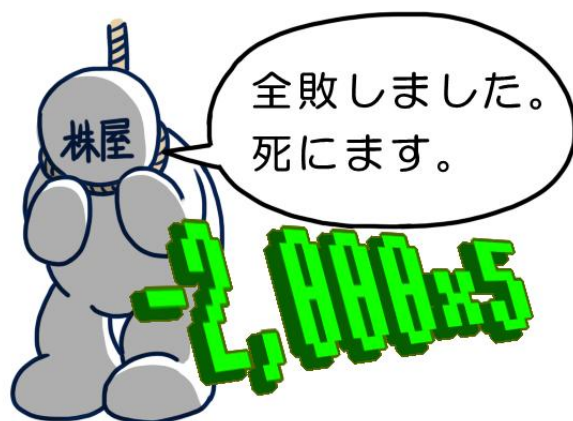
同じように、サイコロも5回かそこら振っただけではどういう目の出方をするか見当もつきませんが、100おくまん回も振れば、それぞれ $1/6$ ずつ出るだろうと予想できます。こーゆーのが大数の法則。

これを株に当てはめると、「一定のルールに基づいて取引するとき、5回かそこら繰り返したぐらいじゃ運ゲーだが、ずっと繰り返しているとルールに基づいた一定の損益に収束していくでしょう」ということになります。そしてこれこそが、上がるか下がるかわからん偶然の世界から、それなりの必然性をもってカネを引き出すためのメカニズムです。例を見てみましょう。

こんな手法があったとします。

勝率 20%
利食えれば+10,000 円
損切らされれば-2,000 円

例えばこれを 5 回繰り返したただと、勝率はかなり低いので……



ということが当然あり得ますから、クソ手法であると判断したくなります。

しかしこれをずっと繰り返し、確率通りの結果に収束するとすれば、1トレードあたりに期待できる損益は……

$$(+10,000 \text{ 円} \times \text{勝率 } 20\%) + (-2,000 \text{ 円} \times \text{敗率 } 80\%) = +400 \text{ 円}$$

となります。ちなみにこの「ずっと繰り返した場合、1トレードあたりに期待できる損益」のことを「期待値」と言います。このトレードの場合、期待値は+400円です。つまり、こーゆートレードを繰り返していると、最後はプラスに収束するでしょうということになります。

続いて、こんな手法があったとします。

- 勝率 80%
- 利食えれば+2,000 円
- 損切らされれば- 10,000 円

同じようにこれを 5 回繰り返したただけだと、勝率はかなり高いので……



ということが当然あり得ますから、神手法であると判断したくなります。

しかしもうおわかりでしょうが、これをずっと繰り返し、確率通りの結果に収束するとすれば、1 トレードあたりに期待できる損益、つまり期待値は……

$$(+2,000 \text{ 円} \times \text{勝率 } 80\%) + (-10,000 \text{ 円} \times \text{敗率 } 20\%) = -400 \text{ 円}$$

となります。つまり、**こーゆートレードを繰り返していると、最後はマイナスに収束するでしょう**ということになります。

「株で勝つ」と聞くと、いかにも「読みを的中させる」ということをイメージしがちで、「どうやったら読みを的中させ続けられるだろう」という方向の努力をしがちです。しかし、しつこいようですが読みを確実に当て続けることなんて非現実的ですし、なんなら勝率が高かろうが、繰り返せば必然的にマイナスに収束するという例があることを今見たばかりです。そして肝心なのは、ほとんどの人にとって、株取引というのは数回コッキリでは終わらず、辞めない限りずっと繰り返されるということ。ホントの一発勝負なら確実に読み勝とうとするのが正解でしょう。しかし、そうでないわたし達にとって、「**株で勝つ**」ということのホントの意味は、「**一回一回の取引で確実に儲けること**」ではなく、**それをずっと繰り返した後の「期待値をプラスにすること**」だとわたしは思ってます。てかこれはけっこーみんな思っ

てます。というわけで、「鮮やかに読みを的中させるセンスを磨く」よりも、「期待値をプラスにするためにはどんな取引を繰り返したらいいかを考える」べきでしょう。

そのための要素は3つあります。

- ☞ 勝率……高けりゃ高いほど良いでしょう
- ☞ 損切り額…小さけりゃ小さいほど良いでしょう
- ☞ 利食い額…デカけりゃデカイほど良いでしょう

このうち、「勝率」は事前に把握することができず、実際やってみにゃわからん不確定な要素であるのに対し、「損切り額」と「利食い額」は、売るタイミング次第でそこそこコントロールが効く要素です。とゆーわけで、**ハズれてもちょい損で済んで、アタればそこそこ儲かる**トコ。いわゆる「**損小利大**」できそうなトコを買い続けるのが、期待値プラスを目指すのに有効だと言えます。もちろん勝率が低すぎるのも考えもので、例えば100回中99回も損切りさせられてたらさすがにクソ手法過ぎますから、「考え直して、どうぞ」と言わざるを得ませんが、逆に8割とか9割とかの勝率も、そうそう出せるもんじゃありません。わたしの場合、そっすね、7割も勝ってりゃ、「デュフフww今日はだいぶ噛み合ってますわww(にや)」となるぐらいです。そんなぐらい勝率ってのは曖昧な要素。**じゃけん損小利大しましよねー**という話です。

ほな、その損切り額と利食い額の比率をどんぐらいに設定すれば良いの？こころへんは人によるでしょうが、わたしの場合は、「多少勝率が低くても最後はプラスになる」ようにしたいので、「損切り額：利食い額=1：2」ぐらいです。「5,000円獲られるのを許容して10,000円を獲りにいく」とゆーカンジ。これなら勝率4割なくても最後はプラスになります。ちなみに個人的にですが、この比率のことを「**リスクリターン倍率**」と呼んでいます。この場合、リスクリターン倍率は2倍。

ほんで、このリスクリターン倍率は高いに越したことはありませんが、かといって、例えば「わかりました。1円獲られるのを許容していちおくまん円獲りにいきます」というように自分勝手に決められるわけではありません。なぜなら既にお話ししたように、**利食いと損切りの目安はあくまで「読み」とその根拠によって決まる**からです。とゆーわけで、ここまでの話を総括すると、「**読み**」によって**利食い**と**損切りの目安**が決まった結果、**損小利大できそうなら買い**ということになります。

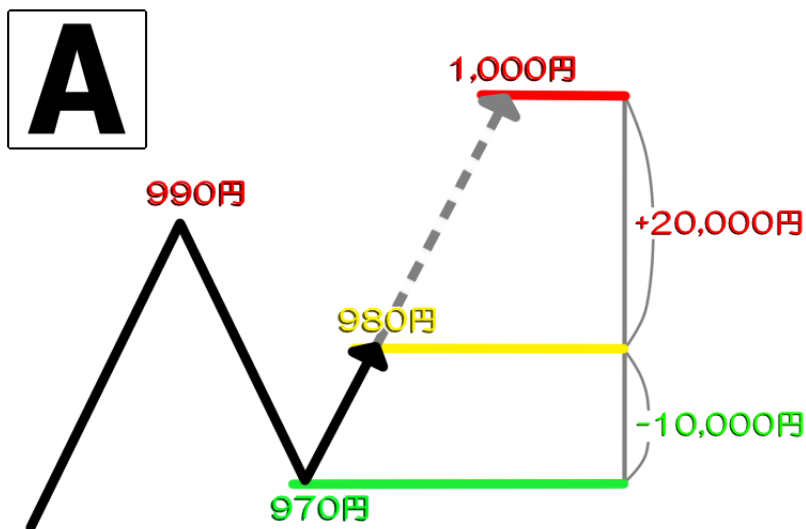
具体的に見てみましょう。



例によって、大台の 1,000 円を目指すだろうと読める局面。ここらへんで……

- ・ 970 円を割ってくるようなら損切り
- ・ 1,000 円まで上がってくれば利食い

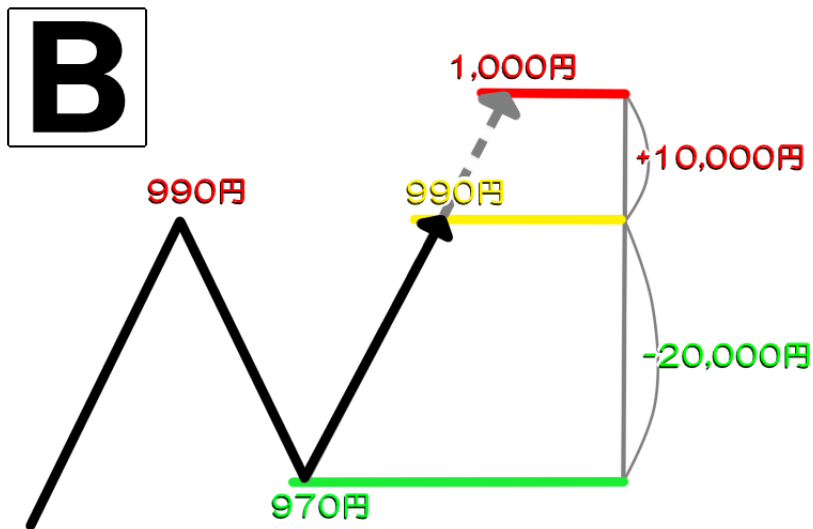
と設定して、1,000 株買おうと思っているとします。この条件で 2 つのパターンを想定してみましょう。



まず、980 円で買うパターン。このとき、想定される損切りと利食いの額はそれぞれ……

- ・ 損切り額=(売値 970 円-買値 980 円)×1,000 株=-10,000 円
- ・ 利食い額=(売値 1,000 円-買値 980 円)×1,000 株=+20,000 円

となるので、損小利大できていると言えます。



一方、モタモタしてて 990 円まで上がった後に買うパターン。想定される損切りと利食いの額はそれぞれ……

- ・ 損切り額=(売値 970 円-買値 990 円)×1,000 株=-20,000 円
- ・ 利食い額=(売値 1,000 円-買値 990 円)×1,000 株=+10,000 円

となるので、**損大利小**しちゃってると言えます。

このように、同じ「1,000 円までは上がりそう」と読める局面でも、買う値段によってリスクリターン倍率が違うことになります。A の場合、損小利大できそうなので「買って、どうぞ」となりますが、B の場合、1,000 円まで上がったところで +10,000 円の儲け。負ったリスク-20,000 円に対して割に合っていないので、「見送って、どうぞ」となります。この場合、「損切り額<利食い額」とするためには、少なくとも 985 円よりは安く買わなければならない、となります。

さて、ここまでくれば「読みをアテること」にさほど大きな意味はないということ、そして「読みをアテてドヤる」のがいかにくだらなかいということがおわかり頂けたんじゃないでしょうか。各種メディアで自称専門家のみなさんが「私には読めていました。なぜ読めたか？その秘密は有料オンラインサロンで」的なことをよくおっしゃっていますが、「で、リスクは？そーゆーゲームじゃねえからこれ」と言いたくなりますね。もちろんアたるならアタってくれた方が良いんですが、勝率なんてそもそも曖昧なもんですし、アテるためにそれ以上のリスク負ってたんじゃない世話ない。要はアタったときとハズれたときのバランスが良くないといけないとい

うわけなんですね。

以上で「株で勝つ」ためのメカニズムの話を終わります。お疲れ様でした。いやいやいやいや、「手法教えろよ。手法だよ。どこで買えば良いか教えんだよ。あくしろよ」と言いたくなるでしょうが、残念ながらこれは教えられません。教え「たくありません」ではなく、「られません」。なぜなら、**どれだけの時間を掛けて、どれだけの利益を得たいのか、そしてこれが最も大事なことです、そのためにどれだけの損失なら許容できるのか**ということが、人によって全く違うからです。例えばわたしのように、「とりあえず食べるぐらいには稼ぎたい。でも1日のトータルをマイナスにはしたくない」とか思ってるヤツの手法を、「破産してもいいから秒速で億稼ぎたい」と思ってるヤツに教えてもイミがありません。同じように、スキルピングしかやらんヤツに企業分析のやり方を事細かに教えてもイミないし、長期保有しようとしてるヤツに板読みを教えてもイミない。結局のところ、自分がやりたいことは自分にしかわからんし、それに合った手法も自分で探すしかないということになります。なんならディーラーなったばっかのときも、最初の1日か2日だけ先輩のトレードを見学したら、「はい実戦。あとは自分で考えてね」とゆるカンジでした。

しかし**どんな手法であれ、合理的な根拠をもって相場を「読み」、損小利大し続けられるのであれば、極端な話、負けたくても簡単には負けられなくなります**。とゆるわけで、なんかそんなベクトルでぼちぼち頑張ってみるといいでしょう、という話でした。

あれ？でも、そこまでメカニズムがわかっているのに、じゃあほとんどの人が株で負けてるのはどうして？

最後にそのことについて**調べてみました。**

スポンサーリンク



プロスペクト理論の損失回避性って？

株をやる以上、儲かることもあれば損することもあります。行動経済学のプロスペクト理論とかゆーヤツによれば、人間というのは得る喜びよりも失う苦しみの方をはるかに強く感じる生き物らしいです。大体こーゆーことです。



おんなじ金額でも、得ると失うのとでは感情の強さが違うということ。要は失うのはすっげーイヤということです。なので、人間は無意識に「失う可能性がある選択肢を排除しようとする」し、「失わなくて済む可能性がある選択肢を選ぼうとする」。これを「損失回避性」といいます。これは人間に最初から備わっている精神の防衛本能らしいです。イヤなことばっかやってたらメンタルぶっ壊れちゃいますからね。

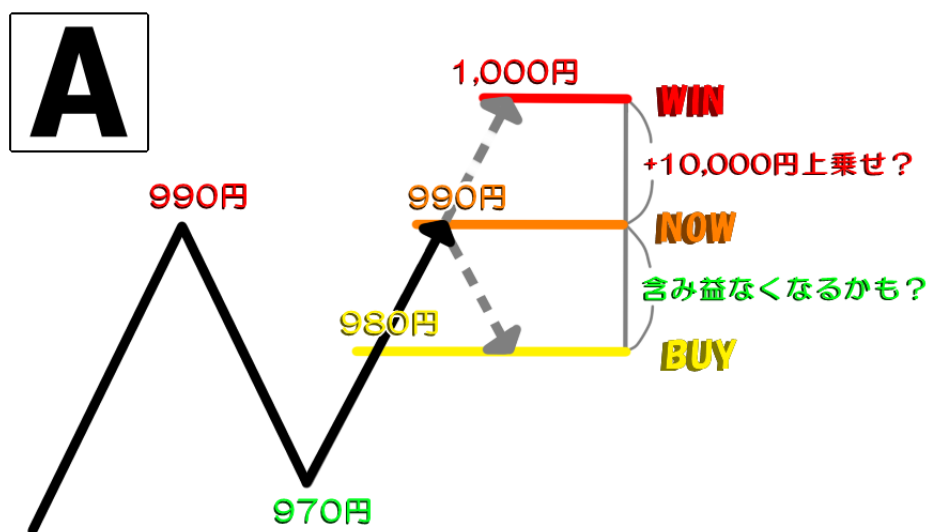
ではこの本能が株取引にどう影響するのでしょうか。例を見てみましょう。



おなじみ 1,000 円を目指すと読める局面。

- ・ 970 円を割ってくるようなら損切り
- ・ 1,000 円まで上がってくれば利食い

というこれまたおなじみの設定で、980 円を 1,000 株買ったとして、2 通りの状況を見てみましょう。

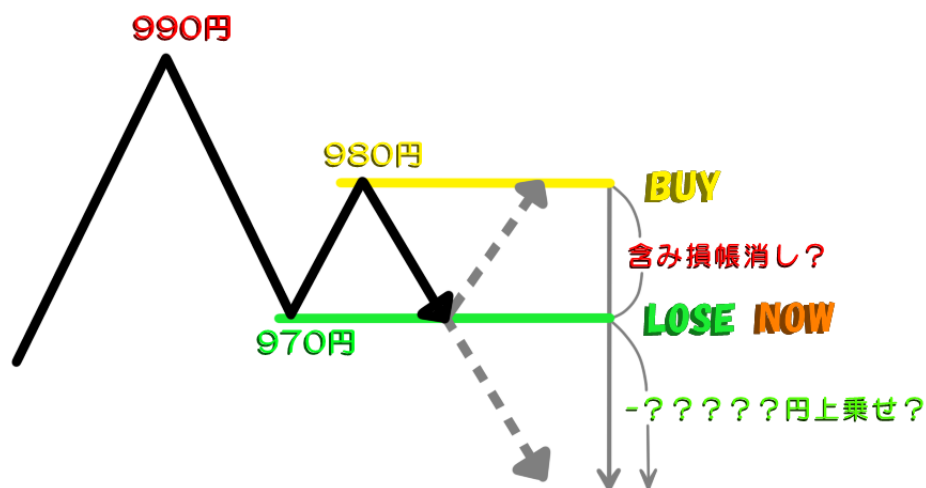


まず、買った後 990 円まで上がり、含み益が+10,000 円ある状況。与えられた選択肢は「売る」と「待つ」の二択ですが、そもそも 1,000 円まで上がると読んでいるわけですから当然「待つ」べきです。しかし損失回避性がそれを許さんとしてます。なぜならこの二択は……

- ・ 売る=確実に 10,000 円手に入る
- ・ 待つ=合計 20,000 円手に入るかもしれないが、すでにある 10,000 円を失うかもしれない。

という意味をそれぞれ持ち、失う可能性を内包する「待つ」という選択肢を避けようとするからです。つまり損失回避性に従えば、人は含み益を抱えたとき、待つことができず、すぐに利食おうとする傾向があると言えます。

B



続いて、買った後 970 円まで下がり、含み損が-10,000 円ある状況。与えられた選択肢はこれまた「売る」か「待つ」かですが、そもそも既に読みをハズしたと言える水準まで下げてきているわけですから、迷うまでもなく「売る」べきです。しかし損失回避性がそれを許さんとしします。なぜならこの二択は……

- ・ 売る=確実に 10,000 円失う
- ・ 待つ=合計 10,000 円以上失うかもしれないが、含み損が帳消しになるかもしれない

という意味をそれぞれ持ち、確実に失うことが決定している「売る」という選択肢を避け、失わなくても済む可能性のある「待つ」を選ぼうとするからです。つまり損失回避性に従えば、人は含み損を抱えたとき、すぐには損切れず、いたずらに待とうとする傾向があると言えます。

まとめると、「損失回避性に従えば、人は損切りをためらい、利食いを早まる傾向にある」ということ。これはすなわち、損切り額が大きく、利食い額が小さい損大利小につながり、必然的に期待値をマイナスに収束させます。つまり、損失回避性を克服しない限り、株では絶対に勝てないと言っても過言ではありません。そしてそれは、「わかりました。気をつけます」で片づくほど簡単ではありません。なぜなら損失回避性は人間に最初から備わっている防衛本能。倒れそうになると手をつく、物が飛んで来たら目を閉じるといった行動を無意識的に、反射的にしてしまうように、本能が人の行動に与える影響は、理性のそれを軽々と凌駕するからです。だからある意味、人間は生まれながらにして株の才能がないと言えます。一見上がるか下がるかだけの、勝ち負け半々に見える世界で、しかしほとんどの人が負けている理由はここにあるんじゃないかと思います。たとえ有効な手法を知っていたとしても本能にそれを阻まれ、必然的に負けるような売買をさせられるということですね。

利食いが早いぐらいなら、実のところゆーほど弊害はありませんが、とりわけ厄介なのは「損切りをためらう」こと。当初想定した水準で損切りをしないとすると、もうどこで降りていいかわからなくなり、一撃で致命傷を負うリスクを許すこととなります。損失回避性との戦いはすなわち、このいわゆる「損切りできない病」との戦いであると言い換えることができます。

ではどうやってこれを克服すればいいのか。残念ながら近道や特効薬はありませんが、わたしの経験から言えば、そのプロセスは3つのレベルに分けることができます。

【LEVEL 1】損失回避性を認識する

損失回避というのは本能的で無意識的な行動なので、意識して観測しようとしなければ、そうと気づくことすらできません。よくあるのが、損切りしなければならぬにもかかわらず、「さっきはここで損切るつもりだったが、今は状況が変わっている。まだ売る必要はないだろう」といった強引な屁理屈をこさえて損失回避を正当化するような思考パターン。損失回避性によって、本来とるべき行動が知らず知らずのうちにねじ曲げられるわけです。ハタから見りゃ「オイオイオイ。死ぬわアイツ」ですが、当の本人はちゃんと考えてやってるつもりでいますし、結果大損したとしても、「なんでちゃんと考えてるのに上手くいかないんだッ！！」と叫び出します。そもそも戦う相手が見えてすらいないというわけです。なので、ま

ずはこれを認識することから始めましょう。

具体的には、「本来どんな取引をしたかったのか」と「実際どんな取引をしたのか」を照らし合わせてみるのが良いでしょう。特に、「損切りラインでちゃんと降りられているかどうか」。実際取引をしている最中は絶賛損失回避中なので「なんでなん…なんでなん…」となっていますが、それを手仕舞い、冷えた頭で見返してみると、「オイオイオイ。死ぬわコイツ」となるはずです。取引中と後とであまりにもかけ離れた自分の行動を見て、二重人格にでもなったんじゃないかと疑いたくなるほどです。まずは「自分が変なことさせられてる」と自覚することが、損失回避性を克服するためのはじめの一步になります。

【LEVEL 2】意識すれば損失回避性をねじ伏せられる

損失回避性の存在を認識できたら、いよいよそれを克服していきます。具体的には、本来すべき取引と実際の取引とが一致するよう矯正していきます。

はじめのうちは、「損切りしなきゃ…しなきゃ…」と言いつつ手が動いてくれないことがほとんど。「次こそちゃんとしなきゃ」と「またやっちゃった…」の繰り返し。しかし意識して矯正しようとしていくうちに、10回に1回、数回に1回、2回に1回、そして最終的には、ちゃんと意識さえすれば毎回損切りができるようになります。本能に逆らってまで不快な選択をし続けようとする様はまるで精神の自傷行為ですが、ここをなんとか抜けられないことには株で勝つことはできないと思います。

ちなみにわたしは「意識さえすれば損切りできる」ようになるまでに1年ほどかかった覚えがあります。振り返ってみても、ここが株で勝とうとする上で最も苦しい過程でした。この段階にはもう二度と戻りたくないと思うぐらいです。ネットなんかを見渡しても、ここで足踏みしたり挫折したりされる方が一番多いように思います。あんまり入れ込むと仕事や私生活にも支障をきたし始めますので、無理し過ぎない程度に頑張ってみてください。

【LEVEL 3】損失回避性を上書きする

さて、ここまで来れば一応手法は機能するようにはなりますが、個人的にはまだ不十分だと思っています。なぜなら、相場はいつも平常心で張れるわけではないからです。勝ちがかさめば浮かれるし、負けが込めばヘコんだりイライラしたりします。あるいは株以外のことで気持ちを乱されることもあるでしょう（例：取引時間

中に「10万貸してくれ」とかゆーふざけたメールが飛んでくる等ww)。こういう精神状態では、意識のブレーキなんて簡単にぶっ壊れてしまい、損失回避性に主導権を奪われやすくなります。

というわけで最後に目指すべきなのが、「意識せずとも損切りできるようになる」状態。といっても特別なことをするわけでもなく、ただ手法に忠実に淡々と取引をこなしていけば、気づけばいつの間にかできるようになっているという類のものです。そもそも損切りというのは期待値をプラスにするための行為。最初は抵抗があっても、次第に自分にとって有益なものだとわかり、それが成功体験となって手になじんできます。すると、かつては「しなきゃ…」と思っても手が動いてくれなかったのが、「下げる理由ねーだろ！納得できるか！死ぬ！！」と言いつつ手が既に損切りしてくれた後というようなことが起きます。損失回避と真逆の行動を、反射的、無意識的にするようになるということ。こうなると損失回避性は完全に鳴りを潜め、いわば「自動リスク回避システム」のようなもので上書きされたような状態となり、極端な話、負けたくても簡単には負けられなくなります。致命傷は無意識に避けてくれるわけですからね。身勝手の極意的な。ええ。そんなカンジですわ。いま考えましたが。

以上が、「株でほとんどの人が負けているのはなぜか、そしてそうならないためにはどうしたらいいのか」のお話でした。日常生活で損失回避性を認識する場面なんてほとんどないですし、別にほっといてもフツーに生きていけるんで、正直ここへんの話はある程度実際のトレードをやってみないとピンと来ないと思います。そして、だからこそわたしは、少額でもいいので最初からマジモンのカネでトレードをすることをオススメします。バーチャマネーでいくら損したって苦しくもなんともないですから、いつまで経っても損失回避性の克服にはつながりません。逆に言えば、天才バーチャトレーダーが実戦でソッコー退場しがちな理由の一つもここにあるのかもしれないね。

さて最後に、損失回避性ってどんなものか、トレードやんなくてもちょっとわかるかもという例を最近見つけたんでご紹介しておきます。

令和2年、大相撲春場所14日目結びの一番。朝乃山対鶴竜の取り組みです。土俵際、投げの打ち合いになり両者同時に倒れ込む場面。人間倒れそうになると防衛本能から無意識に手を出してしまうものですが、相撲では先に手をついた方が負けになるので、力士たちは「落ちるなら頭から落ちろ」と教わります。

鶴竜はその教えが既に防衛本能を上書きしているのかもしれない。倒れそうになっても、手を出そうという素振りがみじんも見えず、むしろ堂々と頭から落ちていきます。さすが横綱です。

一方、朝乃山は手を出してしまいます。もちろん「手をついたら負け」ということは重々承知でしょうが、防衛本能がそれを阻んだのでしょう。それでも意識のブレーキが働き、思い直して手を引っ込めようとしませんが間に合わず、勝ちを譲ってしまいました。

これが「その場では明らかに損と頭では理解していても、体はいうことを聞いてくれない」というひとつの例でした。動画を添付しておきますのでご参照ください。

いかがでしたか？

調べた結果、株の必勝法は **わかりませんでした。**

でも株で勝つってどーゆーことか、そしてそれがなんで難しいのかは大体わかってもらえましたか？

「で、結局なにから始めりゃいいの？」と言いたくなりますが、初めは「**実際の力**で、**少ない金額で**」やってみることをオススメします。リアルマネーじゃないといつまでたっても損失回避性を克服できない一方、最初のうちはどうしても損する確率が圧倒的に高いので、あんま大金突っ込まない方がいいと思うからです。まあゆーても株は自己責任。なんか好きなようにいろいろどンドン試してみて、どうぞ。

では最後に、最も大事なことをスポンサーリンクにして終わりたいと思います。長時間のご視聴、お疲れさまでした。

スポンサーリンク



終